

資料A：「ノルウェイの森」^{もり} 村上春樹^{むらかみはるき}

昔々^{むかしむかし}、といってもせいぜい20年^{にじゅうねん}ぐらい前^{まえ}のことなのだけれど、僕^{ぼく}はある
学生寮^{がくせいりょう}に住^すんでいた。僕は18^{ぼく じゅうはち}で、大学^{だいがく}に入^{はい}ったばかりだった。東京^{とうきょう}のことなん
て何^{なに}ひとつ知^しらなかったし、一人暮らし^{ひとりぐ}をするのも初^{はじ}めてだったので、親^{おや}が心配^{しんぱい}して
その寮^{りょう}をみつけてきてくれた。そこなら食事^{しょくじ}もついているし、いろんな設備^{せつび}も揃^{そろ}
ているし、世間^{せけんし}知らずの18^{じゅうはち}の少年^{しょうねん}でもなんとか生きていけるだろうということだ
った。もちろん費用^{ひよう}のこともあった。寮^{りょう}の費用^{ひよう}は一人暮らし^{ひとりぐ}のそれに比^{くら}べて格段^{かくだん}に
安^{やす}かった。何しろ布団^{ふとん}と電気^{でんき}スタンドさえあればあとは何^{なに}ひとつ買^がい揃^{そろ}える必要^{ひつよう}がな
いのだ。僕^{ぼく}としてはできることならアパートを借^かりて一人^{ひとり}で気楽^{きらく}に暮^くらしたかったの
だが、私立大学^{しりつだいがく}の入学^{にゅうがく}金^{きん}や授業^{じゅぎょう}料^{りょう}や月々^{つきづき}の生活^{せいかつ}費^ひのことを考^{かんが}えろとわがま^いまは言
えなかった。それに僕^{ぼく}も結局^{けっきょく}は住^{じゅう}むところなんてどこだっ^{おも}ていいやと思^{おも}っていたの
だ。

資料B：「キッチン」 吉本ばなな

わたし この世でいちばん好きな場所は台所だと思う。

どこのでも、どんなのでも、それが台所であれば食事を作る場所であれば私はつ
らくない。できれば機能的でよく使い込んでいるといいと思う。乾いた清潔なふきん
が何枚もあって白いタイルがぴかぴか輝く。

ものすごく汚い台所だって、たまらなく好きだ。床に野菜くずが散らかってい
て、スリッパの裏が真っ黒になるくらい汚いそこは、異様に広いといい。ひと冬軽
く越せるような食料が並ぶ巨大な冷蔵庫がそびえ立ち、その銀の扉に私はもたれ
かかる。油が飛び散ったガス台や、さびのついた包丁からふと目を上げると、窓の
外には淋しく星が光る。

わたし 台所が残る。自分しかいないと思っているよりは、ほんの少しましな思想だ
と思う。

ほんとう つか は とき わたし おも し とき だいどころ
本当に疲れ果てた時、私はよくうっとりと思う。いつか死ぬ時がきたら、台所で
息絶えたい。ひとり寒いところでも、誰かがいてあたたかいところでも、私はおび
えずにちゃんと見つめたい。台所なら、いいなと思う。

資料C：「生きる」^い谷川俊太郎^{たにかわしゅんたろう}

^い生きているということ

いま^い生きているということ

それはのどがかわくということ

木もれ^き陽^ひがまぶしいということ

ふっと或るメロディを^{おも}思い出す^だということ

くしゃみすること

あなたと^て手をつなぐこと

^い生きているということ

いま^い生きているということ

それはミニスカート

それはプラネタリウム

それはヨハン・シュトラウス

それはピカソ

それはアルプス

すべての^{うつく}美しいものに^{で あ}出会うということ

そして

かくされた^{あく}悪を^{ちゅういぶか}注意深くこぼむこと

^い生きているということ

いま^い生きているということ

^な泣けるということ

^{わら}笑えるということ

^{おこ}怒れるということ

^{じゆう}自由ということ

^い生きているということ

いま^い生きているということ

いま^{とお}遠くで^{いぬ}犬が^ほ吠えるということ

いま^{ちきゅう}地球が^{まわ}廻っているということ

いまどこかで^{うぶごえ}産声があがるとのこと

いまどこかで^{へいし}兵士が^{きず}傷つくということ

いまぶらんこがゆれているということ

いまいまが^す過ぎてゆくこと

^い生きているということ

いま^い生きているということ

^{とり}鳥ははばたくということ

^{うみ}海はとどろくということ

かたつむりははうということ

^{ひと}人は^{あい}愛するということ

あなたの^て手のぬくみ

いのちということ